

大きさ世界一

八代農業高校で育った晩白柚がギネス記録に認定



▲栽培に関わった生徒たちと丁 薫校長（左から2番目）

県立八代農業高校園芸科学科の学習の一環で栽培した晩白柚が、今年8月にギネス記録に正式認定されました。重量4859・7gで、昨年の12月5日に収穫をしたときのものです。これまでのギネス記録4858gを更新しました。

色づけ作業時にバスケットボール大のひとときわ大きいものを発見し、12月25日に関係者立ち会いのもと重量を確認。3月下旬に申請を完了し、8月に正式認定となりました。

同校園芸科学科の志水大輔教諭は「気象条件や栽培条件が整った結果だと思ふ。晩白柚のPRと販路拡大につながればうれしい」と話し、栽培に携わった生徒たちは「ギネスブックに掲載され、とてもうれしいです」と喜びを語りました。

衣装も新たに奉納

上鏡獅子組保存会



▲雄獅子と雌獅子が舞う

9月27日、上鏡天満宮秋祭りでは上鏡獅子組保存会が獅子舞を奉納しました。今年には自治総合センターの宝くじコミュニティ助成事業の補助を受けて獅子組衣装一式を新調し、地域の皆さん約1000人への初のお披露目となりました。

この獅子舞は、天保10年（1839）に八代妙見祭の獅子舞にならって宮原三神宮に奉納したのが始まりと伝えられています。玉で獅子の頭を叩いたり、最後に玉振りが獅子の背中に乗るなど、独自に発展しているのが見どころのひとつです。

遠山正光上鏡区長は「老朽化した玉振りの衣装も調査し復元できました。上鏡の獅子舞を多くの人に知ってほしい」と語りました。

潮止めの成功を記念

女相撲奉納



▲みはって、みはって

10月5日、千丁町古閑出にある竜神社で例祭が行われ、女相撲が奉納されました。これは、安政2年（1855年）に行われていた潮止め工事が難航し、村の力士たちが潮止め口を踏み固めて工事を成功させたことが始まりと伝えられています。以来、毎年相撲が奉納されるようになり、いつからか女相撲となったといえます。現在、千丁町女相撲保存会によって傳承されています。

神事後、相撲取りに扮した30代〜80代の女相撲取りたちが土俵に登場。土俵を踏み固める地固めの儀式のあと、3組の取り組みが行われました。

土俵外に投げ出されるのを必死にこらえる力士の姿に、観覧者からは「がんばれ、がんばれ」と声援が送られていました。

日本各地の英知を集めて海の再生を

全国アマモサミット



▲3日に開催されたシンポジウム

10月2日から4日まで「第8回全国アマモサミット2015 in くまもと・やつしろ」が開催されました。

これは、海の自然再生・保全をめざす会議で、熊本県では初めての開催です。

3日に、やつしろハーモニーホールで行われたシンポジウムでは、基調講演やパネルディスカッション、実践報告や研究成果の発表が行われました。

「海岸林が津波被害を、サンゴ礁が高潮被害を軽減したり、湿原が洪水を受け止めたりするという生態系を活用した防災・減災について」の報告や、大阪湾見守りネットの事例発表などが行われ、持続可能な再生活動への取り組みについて参加者も含めた活発な意見交換が行われました。

100歳 おめでとうございます



榎崎 ナツエさん
(坂本町)
大正4年10月2日生

菊陽町で4人きょうだいの次女として生まれ育ったナツエさん。結婚を機に坂本町に移り住み、病院で食事作りの仕事をしながら2人の子どもを育てました。特技が編み物で、趣味が読書というナツエさんは、90歳頃まで熱心に読書をしていました。長寿の秘訣は「体を動かすこと」。



下山 マサノさん
(日奈久山下町)
大正4年9月27日生

二見で生まれ育ったマサノさんは、結婚を機に日奈久に移り住み、駄菓子屋や農業などをして5人の子どもを育てました。わら草履作りが得意で、家族によく作っていました。デイサービスで計算問題に取り組んでいるマサノさん。長寿の秘訣は「暴飲暴食をせず、くよくよしない」。



平田 マスエさん
(鏡町)
大正4年9月22日生

現在、施設で暮らすマスエさんは、5人兄弟の3番目として生まれ、結婚後、農業で3人の子どもを育てました。料理が得意で、煮魚などを作っては家族に喜ばれました。食事の時間が楽しみというマスエさんの長寿の秘訣は「何でも食べること」。



岡内 秋丸さん
(緑町)
大正4年9月21日生

現在、施設で暮らす秋丸さん。泉町で生まれ育ち、木材業を約60年間営みました。得意な柔剣道では師範代の腕前です。デイサービスでのおしゃべりが楽しみという秋丸さんの長寿の秘訣は「運動したり、楽しみをもつこと」。



高光 キヨノさん
(東陽町)
大正4年9月20日生

現在、施設で暮らすキヨノさん。泉町で10人きょうだいの5番目で長女として生まれ育ち、結婚して瓦屋の手伝いをしながら2人の子どもを育てました。裁縫が得意で、家族や孫の着物を作って喜ばれました。長寿の秘訣は「自分のことは自分でやること、おしゃれをすること」。

八代海 河川・浜辺の大そうじ大会



▲各海岸で収集したごみを分別

9月27日、市内の海岸や河川など6カ所で行われた「八代海 河川・浜辺の大そうじ大会」が行われ、県内外から約200人が参加しました。これは、八代海の現状に目を向け、同海の再生に向けた意識を高めることが目的です。参加者は各海岸で岩やテトラポットの間に挟まった空き缶やたばこの吸い殻などを収集。日奈久海岸で分別し、処理しました。また、ごみ不法投棄の影響を調べるため、各海岸で採取した水の水質検査を実施し、八代海の現状と今後の対策について学習しました。

八代市障がい者スポーツ競技



▲フライングディスクがゴールに吸い込まれる

9月26日、市総合体育館で八代市民体育祭障がい者スポーツ競技（フライングディスク）が初めて開催され、7団体と個人の46人が出場しました。これは、市民体育祭で障がい者を対象にしたスポーツ競技が追加され、初めて行われたものです。今回の競技では、ディスクを10回投げ、5mか7m離れた場所に設置された円形のゴールを通過した数を競います。視覚障がい者が挑戦するときはゴール付近から音を立てて方向を示すなどの工夫が凝らされました。

JICA青年海外協力隊出発報告



▲タイへの派遣が決まった堤昌宏さん

今年9月29日から2年間、JICAボランティアでタイに派遣される鏡町の堤昌宏さんが9月18日に市役所を訪れ、中村博生市長に出発の報告をしました。堤さんは理学療法士として、現地の保健所や家を訪問し、リハビリ活動に当たることになっています。堤さんは「海外のリハビリ技術が途上のところで自分の力を試したい」と抱負を語りました。



八代地区科学発明展



▲DNAの模型作りで丁寧に作業をする子どもたち

10月10・11日の2日間、「第11回八代地区科学発明展」がやつしろハーモニーホールで開催されました。

会場には、科学研究所や発明工夫品の148点が展示され、また、楽しい科学や工作教室などの体験教室も同時に開催されました。

「DNAの模型をつくろう！」に参加した山内心寧さん（松高小4年）は、「DNAをかたどったビーズに針金を通すのが難しかったけれど、きれいに完成したときには嬉しかったです」と楽しそうに話しました。

五家荘の日



▲ゴカレンジャーによるステージショー

10月4日、平家いずみお茶祭りの第2部となる「五家荘の日」が振興センター五家荘（旧泉第七小学校）で開催され、多くの人で賑わいました。

これは五家荘地域振興会が、平成22年に吉から椎原までバス路線が延伸されたことを記念して翌23年から開催しており、今回で5回目です。

秀岳館高校雅太鼓部による演奏や榎木神楽・葉木神楽の演舞、ゴカレンジャー、椎茸そうめし、早食い大会などが行われました。

県優良自主防災組織知事表彰受賞



▲授賞式を終え、県庁前で記念撮影。左から山田信男会長、福田昭久副会長

10月2日、県庁で熊本県優良自主防災組織知事表彰・表彰式が行われ、県内10団体、本市からは高下西町第二町内自主防災会（山田信男会長）が出席し、浦島郁夫知事から表彰状の授与が行われました。

同自主防災会は平成19年に結成。高齢者防災訓練の実施や避難行動要支援者の全戸把握などを行い、地域住民の防災意識の向上に務めていることが評価されました。

山田会長は「今後も継続して訓練を実施していきたい」と喜びを語りました。

全国女性消防操法大会



▲三番員優秀選手賞に選ばれた宮本結花隊員



▲練習の成果を発揮する八代市消防団女性消防隊

10月15日、神奈川県横浜市で第22回全国女性消防操法大会が行われ、46都道府県から276人が参加。熊本県からは、県大会で優勝した八代市消防団女性消防隊が初出場しました。

この大会は、女性消防隊の消防技術向上と士気の高揚を図り、地域における消防活動の充実に寄与することを目的に、2年に1度開催されています。消防庁と日本消防協会主催。

開会式では、森屋宏総務大臣政務官が「日頃の訓練で培った高い知識のもと、積み重ねてきた技術を大いに発揮してください」とあいさつ。選手宣誓の後、さっそく操法競技が開始されました。選手たちは、キビキビとした動作で軽可搬ポンプと3本のホースをつなぎ、標的の火点に向けて放水を行いました。

八代市消防団女性消防隊は、惜しくも上位入賞を逃しましたが、敢闘賞を受賞。また、3番員の宮本結花さん（坂本町）が担当ごとに贈られる優秀選手賞に選ばれました。

環境美化推進善行者表彰式



▲表彰を受けた皆さん

10月14日、環境美化推進善行者表彰式がやつしろハーモニーホールで行われ、21人と6団体が表彰を受けました。

この表彰式は、市の環境美化の推進に貢献し、住みよききれいな地域社会づくりに尽力している個人または団体に表彰を行うものです。

中村博生市長が受賞者に表彰状を授与。「長年にわたり地域の環境美化の推進に尽力されている皆さんが、各年代に環境美化の意識を伝達していただき、今後もご支援とご協力をいただければありがたい」と感謝を述べました。